

「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」 検討部会の結果について（報告）

標記の件について、平成 28 年 1 月 26 日に開催された第 2 回検討部会の結果を報告します。本件については、平成 28 年 2 月 3 日に環境審議会へ報告しております。

【第 2 回検討部会の概要】

1 報告事項

- (1) COP21 の概要 (2) 国の地球温暖化対策計画（骨子案）

2 議事

- (1) 前回の主なご意見とその対応 (2) 現状分析と将来推計について
(3) 計画の目標（案） (4) 目標達成に向けた取組の方向
(5) 今後の検討スケジュール

3 主な意見

(1) 前回の主なご意見とその対応について

- 家庭、業務、運輸部門と同様に、産業部門についても部門別目標を掲げ、市民に見える形で、PDCA サイクルで改善等していくことが重要である。
- 産業部門からの排出量の大部分は、自主行動計画等に基づいて削減の取組が進められることになる。自主行動計画のない残りの事業所や農漁業等について、商工会議所などの協力も得ながら、行政として取組を進めるべき。
- 計画のサブタイトルについては、環境のフロンティアを切りひらくという意味で、現行の「北九州グリーンフロンティアプラン」でもよいのではないか

(2) 現状分析と将来推計について

- 将来予測に用いる係数や方法などは、県、福岡市ともよく協議すべき。
- 市の基本計画で掲げた経済目標と CO₂ 排出量予測とはリンクするのか。

(3) 計画の目標（案）について

- 今回の目標は、現行の環境モデル都市行動計画の目標（2050 年度▲50%）を前提とすべき。
- 世帯あたりの CO₂ 排出削減手法を市民に啓発する際は、具体的な取組とその成果をイラストで示すなど、表現を工夫してはどうか。
- 海外の削減を積極的に提起していることは評価したい。北九州市の環境国際協力は全国でもトップクラスであり、この点はもっと発信すべき。

(4) その他

- 東田地区では、熱は工場で、電気は地域で使うことでエネルギー効率を飛躍的に高めた。このようなセクター間の協働の視点も計画に入れてもらえるとよい。
- 環境学習関連施策は、環境分野の取組全般につながる大事な部分なので、家庭部門だけでなく、産業部門や業務部門においても実施すべきではないか。

